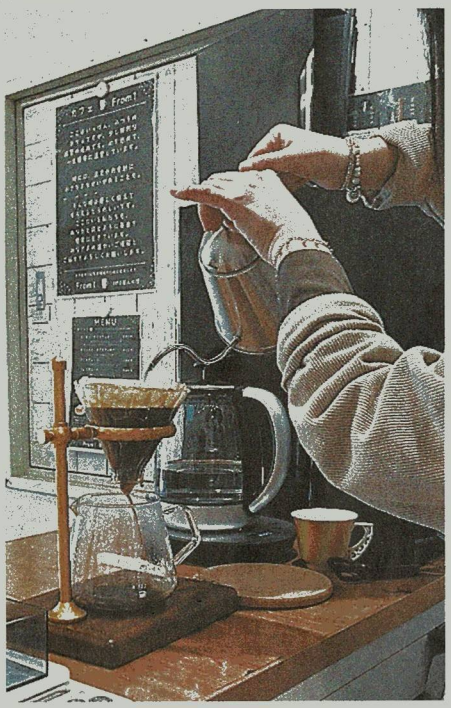
孤独感じたら カフェに来て

いろんな人が行き交う「居場所」に――。長崎市浜町のアーケード近くで、小さなカフェが9日、オープンした。店内は、コーヒーの香りが漂い、多くの客でにぎわっていた。



「いっけん、ふつうのカフェですが、少し特別な練習の場所です」。提供に時間がかかることもあり、理解を求める貼り紙が貼られている＝長崎市浜町

ひきこもりなど支援のNPO、長崎で開店

いろんな人が行き交う居場所に

店名は「From1」。「みんなで、いちから手作りしていく」という思いが込められている。管理するのは認定NPO法人「心澄（しんじょう）」。2009年に団体設立後、不登校やひきこもりに悩む若者や、家族らを支援する県子ども・若者総合相談センター「ゆめおす」の運営を受託。就労継続支援B型事業所の立ち上げや居場所作りに取り組み、生きづらさを抱える人を支援してきた。

新たな「居場所」としてカフェを選んだのは、「いろんな人が行き交う場を作りたかったから」と宮本鷹明理事長(40)は話す。困りごとがある人も、ない人も、それぞれの目的で利用できる。相談所はハードルが高いと感じる人も、気軽に立ち寄ることができる。「いままでフォローできていなかった人に手が届けば」。カフェでは、事業所に通う通所者らが接客を務め、心澄のスタッフも交代で駐在。必要な支援につなぐこともできる。

心澄が手がける事業は就労体験施設の運営のほか、訪問相談や自立支援、就労支援など多岐にわたるが、「目の前の一人を支えるために、その全てが必要なんです」と宮本理事長。特に制度のはざまにいる人たちのことを考える。

18歳以上を対象にしたシェアホームも、その一つ。養護施設などで育った若者の多くが、18歳までしか支援を受けることができない状況に問題意識を持って開設。家族などから虐待を受けるなどして相談に来た20～30代の7人が暮らしている。

根底にあるのは「一人も孤独にさせない」という思い。カフェもその一環だ。「ちょっと話をしたいときも、一人で過ごしたいときも、気軽に立ち寄ってほしい」。火、木、土曜日の午後1時～午後5時に開いている。（寺島笑花）